（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス　フーレイ　小方教室

公表日　2026年1月27日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	100%		・活動に応じてヘルプを要請するなどして増員している。	・職員の勤務により、変動あり。（配置人数は確保している。）
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		・多目的トイレ、スロープの設置。 ・入口に段差がない。	・今は開放的な空間が多いが、仕切りを作ることで空間内を分かりやすくする方法も取り入れたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		・子どもがの活動時にケガやトラブルにつながらないよう、空間を構造化している。 ・毎日の掃除、定期的なおもちゃの消毒実施	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	88%	12%	・毎月の会議や話し合い、連絡ツールを使って、どの職員でも話し合いに参加できるようにしている。	・課題が解決しないまま継続しているものもある。（色んな方法を試行中）
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		・毎年の保護者アンケートから要望をくみ取り、支援や配慮にどう生かしていくかを話し合い実施している。	・評価表にて、まだ『わからない』の項目への〇があるため、もっと周知や知ってもらえる機会を作っていきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		・ちょっとした気付きや疑問に感じた時に話し合える環境を大切にしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	88%	12%	・第三者委員会を設置している。	・今後はもっと第三者委員会冑の方の施設見学や活動参加の機会も設けていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		・定期的に法人内研修を行い、施設外研修も呼びかけている。	・より多くの研修情報を集め、参加していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		・SNS（Facebook、インスタ）内で公開している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		・相談や不安な事にはその都度寄り添い、疑問や質問についてはこちらからも積極的に聞き取り、より正確なアセスメントが行えるよう工夫している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		・個別支援計画案を共有し、それぞれで確認。必要があれば提案、改善している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	100%			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		・それぞれに意見を出し合っている。	・今後は担当を決め、地域との連携も活動プログラムに入れていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		・利用曜日や期間が決まったお子様にも偏りなく活動できるように配慮している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		・連絡ツールも活用しつつ全員が内容を把握したり、発言したりできる様にしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	100%		・連絡ツールも活用しつつ全員が内容を把握したり、発言したりできる様にしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		・毎日の支援記録とともに、安全確保のためのやむを得ない時に行った身体拘束記録なども記載している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	100%			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		・主として児童発達支援管理者が参画しているが、支援状況により、他の支援者も参画することがある。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		・発達障害部会で、保健師や市役所、保育所、学校などと困るごとの共有をしている。	・教育機関の参加がなかなか難しく、リアルタイムでの共有が難しい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	88%	12%	・同事業所内の児童発達を利用しているお子様はその都度保育所等訪問や担当者会議を行っている。	・新規で利用が始まるタイミングが一年生の4月とは限らないため、情報収集が難しい場合がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	100%		・地域に児童発達支援センターがないため、市の保健師や近隣の県の児童発達支援センターと連携を取っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	88%	12%	・毎長期休みに1日、地域の子ども達との勉強会及びイベントに参加している。 ・同市内の放課後等デイサービスと共にイベントを企画した。	・正式な地域の子ども達との関わりは年3回のイベントのみなので、今後増やしていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	88%	12%	・発達障害部会、精神福祉部会、地域生活部会、事業所部会、コイちゃん福祉ネット部会に参加。そのうち一事業所内では副部長も担っている。	・現在限定的メンバーの参加のみなので、今後参加人数を増やしていき、地域参加や見聞を広めるためのの足掛かりにしていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		・別機関での研修のお知らせをしている。	・現在、保護者会で話題が出た時にペアトレの要素を盛り込んでいる程度。個別に対応することもあるが、研修や勉強会の機会も作っていきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	100%			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100%		・年に二回の保護者会開催。うち一回は就労支援事業所の見学会をしており、将来的な選択肢の見通しにつなげている。兄弟イベントは多くないが、夏休みに子ども達主体のカ	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%		・定期的にFacebook、インスタで情報を発信。それとは別にお便りや活動カレンダーの補足説明でも取り上げている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		・定期的にFacebook、インスタで情報を発信。それとは別にお便りや活動カレンダーの補足説明でも取り上げている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		・SNSでの掲載は承諾書で確認。掲載の際も顔と個人が特定されそうなものについてはモザイク対応。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	88%	12%	・随時見学はいつでもお越しくださいと発信。ボランティアも歓迎の旨は伝えており、子ども達のお店屋さんにはお客様として関わっていただける機会を作っている。	・特別にイベント企画や招待は行っておらず、地域のイベントに参加する側が多い。今後何か企画していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		・マニュアル策定済み ・定期的に訓練を行っている。 ・マニュアルそのものではなく、季節や時期的に必要だと思われるタイミングで抜粋してお便り配布。	・今後、マニュアルそのものを公開し、周知していきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		・マニュアル策定済み ・定期的に研修、訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%		・必要な情報の保護者への聞き取り後、対応を職員内で共有。 ・救命講習を受け、最善の対応ができるよう備えている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		・アレルギーについて貼りだし、周知徹底している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		・安全計画作成済み。 ・安全点検表にて月に一回、二名体制で遊具・環境チェック。必要があれば修繕。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	100%			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		・連絡ツール内で共有後、書類作成。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		・定期的に研修実施。 ・安全を守るためのやむを得ない場合の身体拘束については保護者様に説明後記録に記載。（支援計画時、承諾書にて明記済み）	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%		・研修時にどのような時に身体拘束を行うかを話し合い共有。なるべく身体拘束を行わなくていいように事前に場面想定をしておく。支援計画作成時に保護者様に説明済み。	